

# 広島県中小企業団体中央会 2021年5月分情報連絡一覧表

※本調査は6月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する6月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

## ●食料品

### 広島県東部菓子商工業協同組合

今月の売上は前年同月比14%減少。前年同月の売上が多かった分、少し落ちた印象である。多くの人が職をなくしたり所得が減ることで、個人消費が下がる。ワクチン接種が進まなければ、経済も良くならない。

### 中国醤油醸造協同組合

5月の出荷量は前月比11.7%減少、前年同月比34.0%増加となり、売上高は前月比13.3%減少、前年同月比37.7%増加となった。

(繊維・同製品)

## ●繊維工業

### 広島県織物構造改善工業組合

緊急事態宣言の効果が出て感染者も減少傾向にはあるが、相変わらず油断できない状況である。受注も多少増えているが、先行きは非常に不透明である。

### 広島アパテック協同組合

見通しは依然としてよくない。来月以降はさらに不安が増大しそうである。企業によっては、防護服等の受注を期待している。デパート、小売店の売上が落ち込み、仕事が少ない。一方で通販の売れ行きが好調である。

(木材・木製品)

## ●木材・木製品

### 広島県木材協同組合連合会

<全国>

- ・令和3年4月の全国新設住宅着工戸数は74,521戸で前年同月比7.1%増加
- ・季節調整済年率換算値では883千戸で前月比0.3%増加となった。
- ・利用関係別では、持家は22,877戸で前年同月比8.8%増加、貸家は28,825戸で同13.6%増加
- ・分譲住宅は22,483戸で同0.3%減少
- ・木造住宅は41,056戸で同5.7%増加
- ・住宅着工動向は、全体では前年同月比で2カ月連続の増加となり、コロナ禍を経て回復傾向にあるものの、過去最低水準からの回復であり、今後の動向を注視していく必要がある。

<広島>

- ・4月の着工戸数は1,353戸で前年同月比33.7%増加
- ・内訳としては、持家は442戸で同13.9%増加、貸家は517戸で同153.4%増加、分譲は394戸で同8.2%増加と県全体の住宅着工動向は3カ月ぶりの増加となった。
- ・地域別では広島市が619戸で前年同月比25.3%増、福山市が363戸で同97.3%増加、東広島市は98戸で同30.7%増加、呉市は53戸で同26.2%増加、廿日市市は27戸で同50.0%増加の一方、尾道市は49戸で同43.0%減少であった。

回復傾向にあるもののコロナ禍で過去最低水準からの回復であり、緊急事態宣言の再発出による外出自粛に加え、ウッドショックと呼ばれる外国産木材製品の輸入量減少と価格高騰、代替としての国産材への波及（原木値上がり）の影響で市況は混沌としており、資材不足で厳しさが増すプレカット商況の一方、フル稼働を続ける製材工場もあるなど先行き不透明であり、今後の需給動向をしっかりと注視していく必要がある。

### ひろしま木材事業協同組合

ウッドショックにより、昨年末以降、欧州材を原料とする集成材や米松などの外材製品の価格は2~3割値上がりしている。価格以外に材料の量の確保が危ぶまれている。着工の計画が狂うことを懸念するビルダーが増えており、更なる値上がりが予想される。

国産材丸太については、製品高・量の不足を背景に杉、檜共に相場の上昇が続いている。特に檜は5月下旬において3m柱取りで26,000円/m<sup>3</sup>、4m土台取りで25,000円/m<sup>3</sup>となり、前月比で2,000円~3,000円/m<sup>3</sup>の上昇となっている。6月には30,000円/m<sup>3</sup>台に突入する勢いである。

### 福山木材協同組合

木材不足が深刻である。

(印刷)

## ●出版・印刷・同関連

### 広島県印刷工業組合

仕事がどんどん減っていく中でも、気持ちだけは上げていかなければと強く思う。感染防止に十分配慮し、皆で

知恵を絞り、一步でも前に進める努力に汗をかいていきたい。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

引き続き先月から大きな変化はない。自動車各社の減産の流れはしばらく続きそうだが、コロナ収束後を考えるとむやみに人員削減はできない。固定費はかなり削減された一方、物流費の高騰など変動費が圧迫している状況である。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

一時的に材料価格が低水準であったが、原材料樹脂・金属材料の値上げがあり、一部の樹脂の調達に支障が出てきている。

自動車関連は、半導体不足での減産、コロナ対応で稼働は非効率な対応を余儀なくされている。これらの外的要因による影響が大きく、今後の状況が不明なために楽観視できない。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

R3年5月 2,495m<sup>3</sup> (対前年比13.43%減)

R3年4月 2,861m<sup>3</sup>

R2年5月 2,882m<sup>3</sup>

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

軋鉄鋼協同組合連合会

設備操業度がリーマンショックの頃並みに減少している。団地内で何年も使用していなかった空き工場の売買があり、今後の団地の活性化に期待したい。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は大きな変化もなく前月比で5%減少、前年同月比は3%減少であった。ただ、受注の回復は持続しており、外需比率が70%を超えた。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合 (電気機械器具)

今月の売上は、前月比変化無し、前年同月比5%増加となった。半導体製造装置及びロボット関係が堅調に推移している。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具 (自動車)

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客 (マツダ) の業況 (生産台数) に比例している。

・5月の国内自動車販売台数は全需が320千台、前年同月比46.3%増加と8ヶ月連続の前年超え。登録車は前年同月比30.9%増加と3ヶ月連続で前年超え、軽自動車は同78.6%増加と8ヶ月連続の前年超え、マツダ車は同10.6%増加と2ヶ月連続で前年超え。

・アメリカの4月度の全需は1,512千台で、前年同月比110.4%増加と急回復。マツダは更に前年同月比184.4%と、前年同月を大きく上回り回復した。

・欧州の4月の全需は1,232千台で、前年同月比252.6%増加と2ヶ月連続で前年を上回り、マツダ車は同323.7%増加と2ヶ月連続で前年同月を上回る回復結果となった。

・中国の全需は1,973千台で、前年同月比4.8%減少し、マツダ車は同10.9%減少と3ヶ月ぶりに前年割れとなった。

・上記各地域の状況下、マツダ車の3月の海外販売合計は102千台、前年同月比148.5%増加で前月に続き前年超えとなった。

・マツダ車の4月の輸出台数は、前年比619%増加と2ヶ月連続で前年越えとなった。

・マツダ車の国内生産台数は、前年同月比536%増加と2ヶ月連続で前年越えとなった。

●輸送用機械器具 (造船)

中国地区造船協議会

県内2500総トン以上の令和3年4月の船舶建造許可実績は2隻、10,300総トンであった (前月3隻283,200総トン、前年同月4隻105,940総トン)。

なお、内訳は国内船が1隻で油槽船、輸出船は1隻で貨物船であった。

(一社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化は無い。

(卸売業)

●卸売業(総合)

協同組合広島総合卸センター

景況感にやや好転が見られるも、先行きは不透明。

「雑貨」においては生活必需品、医薬品関連とそれ以外で明暗が分かれている。

「資材」においては製造業の復調が牽引し、設備投資に回復の兆しが見られ、ばらつきはあるものの、全体的には好転。

「食品」においてはコロナ禍の長期化による影響が大きく、外食向け需要は極めて低位に推移。

「繊維」においてはコロナ禍による外出機会減少、在宅増加を背景に、需要が低迷し、昨年来の在庫負担が重荷となっている。

●卸売業(生鮮)

広島水産物仲卸協同組合

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で売上が厳しい。

●卸売業(電設資材)

広島県電設資材卸業協同組合

3月の新築住宅着工は前年比1.1%減少、持家は12.0%減少だが、分譲が5.6%増加した。建築資材不足による価格高騰が続いており、今後の懸念材料である。

●卸売業(家具)

リビズ株式会社

月末に1社脱退があった。

●卸売業(畳・敷物)

広島県藁製品商業協同組合

気候が良くなり景気が持ち直すかと思ったが、前月よりも消費が伸びなかった。生産もゆっくりで市場を見ながらの畳表生産となっている。

中国畳表は前年並み程度に回復を見せている。

(小売業)

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

水産に関してはほぼ前年並みで低水準の見込みであり、青果は入荷が前年を上回ったが、消費の冷え込みから相場安となり、取扱高は前年の8割弱に落ち込んだ。

5月前半は堅調な推移だったが、緊急事態宣言発令以降、飲食・宿泊業向け販売がほぼ皆無となり、急激な落ち込みとなった。

食品スーパーも堅調な売上であったが、巣ごもり需要もひと段落し、週末のまとめ買いが目立つ程度である。

協同組合三次ショッピングセンター

5月途中に緊急事態宣言が発令されたが、あまり人の動きに変化はなく、昨年に比べほとんど売上減少への影響はなかった。客数、売上ともに戻ってきているが、まだ一昨年水準までには戻らない。緊急事態宣言が終われば徐々に売上回復が期待される。コロナ禍で敬遠される飲食店、ゲームセンターは緊急事態宣言の影響が大きく厳しい状況である。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比27%増加となった。

商品別では、薄型テレビ同23%増加、冷蔵庫同10%増加、洗濯機同4%増加、IHクッキングヒーター同21%減少、エコキュート同67%増加、エアコン同25%増加となった。

前年度増加の商品が多いが、実感はあまりない。

●その他の小売業(燃料)

広島県石油商業組合

昨年同月比では販売量が増加しているものの、前月同様、利幅の縮小から収益状況は悪化しており、また、仕入価格の乱高下から販売価格の値決めにも苦慮している。

(商店街)

●商店街(各種商品小売業)

呉本通商店街振興組合

緊急事態宣言を受けて、呉市中央地区の多くの飲食業、特に居酒屋が休業に追い込まれている中、時短営業やテイクアウトで営業を継続している食堂や喫茶店が目立つ。現状は低位安定の状況ではあるが、宣言の延長などで外出自粛による来街者の減少が続けば、小売業の売上にも影響を及ぼすことになる。

(サービス業)

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比8.0%減少、前年比10.3%増加。

車検場収入は、前月比7.7%減少、前年比13.3%増加。

重量税・登録印紙の売上は、前月比12.4%減少、前年比9.2%増加。

## ●広告業

### 広島県広告美術協同組合連合会

例年、閑散期ではあるが、今年は増加傾向であった。イベントの自粛などの影響で引き続き受注は厳しい状況である。

## ●警備業

### 広島県警備業協同組合

比較的影響が少なかった当業界にも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出始めている。

## (建設業)

## ●工事業

### 福山地区電気工事業協同組合

5月分の工事受付件数は前月比3.5%減少、前年同月比3.0%増加となった。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が収まって景気が上向くことを期待する。

### 広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、5月度は前月比56%増加、前年同月比は27%減少、累計前年比38%減少と大幅に下落した。4月より幾分か持ち直したが、新年度に入って、コロナ禍の影響が建設業及び専門工事業界にじわじわと押し寄せている。先の見通しがつかず、建築への投資が抑制されつつあり、極めて厳しい状況が続くと思われる。

## (運輸業)

## ●道路貨物運送業

### 広島輸送ターミナル協同組合

5月は緊急事態宣言が発令され、飲食関連の荷動きは悪く車輛が余った。世界的な半導体不足により自動車関連の荷動きも停滞した。

ワクチンの普及と投機資金の原油市場流入により、国内燃料価格は上昇しており、収益も悪化した。

## ●道路貨物運送業

### 松永地区トラック事業協同組合

5月の売上高は、前年同月比では増加したが、前月比では大きな変化はなかった。

緊急事態宣言が発出されて、宣言が出ている地域、特に関東、中部、関西方面からの返路貨物の荷動きがあまりよくない。関西方面だと空車回送してすぐに往路荷物を積み込みする方法もあるが、それ以外の地域だと空車回送するだけで1日かかるので、返路貨物があるまで現地で留まるか、もしくは西方面へ向かいつつ返路貨物を探すようになる。

燃料サーチャージ制を導入していれば、燃料価格に合わせて運賃に価格変動費が上乘せされるが、荷主企業の理解を得ることが難しいので、大半の運送会社は導入できていない。

## ●水運業

### 全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進んでいると同時に若年船員が育っていないため、船員不足である。

運賃、用船料の改善が見られない。

## (その他)

## ●不動産業

### 広島県不動産評価システム協同組合

組合員1名脱退、1名加入。

5月は固定資産路線価業務等の入金があり、前月比で売上高が増加し、収益等も好転している。ただ、前年同月比では前年は固定資産標準宅地評価報酬の入金があったが、今年はその入金がない分売上高が減少し、収益等も悪化している。

流川・薬研堀歓楽街の飲食店業界は、連休が明けてから再度の自粛・時短要請が出ており、依然として客足が少ない状況が続いており、客足回復には時間がかかるものと思われる。

不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、株価上昇等の景況感もあり、横ばいないしは上昇傾向にある。